

木本喜美子ゼミ ● 家族と労働の社会学

本ゼミでは「家族」の歴史変動に関する文献を読み解くことを中心に据え、「家族」と「労働」の相互連関に対する理解を多面的に深めながら、フィールドワークに取り組みます。

3年生の前半は、家族変動と社会変動に関する文献を読みながら、選んだテーマのもと、フィールドワークも併せて進めていきます。たとえ結婚相談所への調査に基づいて結婚観の変化を精査したり、子育てと労働の両立支援策を導入している企業に取材を行い、制度がうまく機能しているかを調査するなど、学生の選ぶテーマを通して現代的な課題に切り込む力を身につけていきます。



計画的な卒論準備のために、3年生で設定したテーマについて継続して文献の読み込みを進めるよう指導しています。平成24年度の4年生は3年次には「男性の育児」を



テーマに設定し、育児休暇を取得している男性会社員にインタビューを実施。リアルな育児の様子を目の当たりにしながら、自分たちなりの結論を交えて報告書にまとめました。卒論でこのテーマをさらに発展させるゼミテンも出ています。

本ゼミで大切にしているのは、調査のプロセスです。調査対象となる方々に目的・方法をしっかりと伝え、インタビューやアンケートに協力していただく。辞退された場合には、次の協力者を一生懸命探してアタックする。これは社会に出てから大きな力となるはずですが、また、調査内容から結論を導き出すプロセスにもチェックを入れます。特定の調査対象に偏った結論になりそうな場合には別の視点を提供し、軌道修正を行います。調査自体の質はもちろんですが、プロセスを評価することで「調査する力」を磨き、学生一人ひとりの将来に役立ててほしいと考えています。(談)

山田哲也ゼミ ● 教育社会学・教育調査

本ゼミでは社会学的な視点から教育領域で生じている事象を把握し、「教育と社会との関係」について学生一人ひとりが持っている問題意識を追究していきます。3年生の段階では、まずゼミ参加者で各自の興味を出し合い、チームで追究する調査テーマを決めてもらいます。「教育と社会との関係」を扱ったものであれば、具体的なテーマは自由です。実際、学生が選ぶテーマは「学校建築の教育効果」や「保護者の教育サービス利用」など、毎年バラエティーに富んでいます。

ちなみに平成24年度のテーマは「スクール・カースト」。子どもたちの間に上下関係が生まれるメカニズムについて、学生自身の体験も踏まえつつ、関連する文献を読み込んで調査をデザインし、中学校2校に協力を仰いで実態調査を進めています。具体的には、中学校



側目的を伝えて承諾を取り、2年生を対象にアンケートを行います。そこで得られた回答をもとに1人当たり10ページ前後の論考を書き、最終的にチームとしての報告書にまとめめる。ここまでが3年生の課題となります。4年生は各自でテーマを設定し卒論の作成を行いながら、自らの経験をもとに後輩の3年生をサポートしてもらっています。

参加した学生の志望動機は必ずしも共通していません。社会調査の技法を学ぶために本ゼミを選び、結果として「教育と社会との関係」が調査対象になった人。将来は公務員として教育に携わるという目標を持ち、当ゼミを選んだ流れで調査を経験している人。アルバイトで塾講師をして、教育に関心を持った人。そんなさまざまな志向・価値観を持った学生が集まって、議論を交わっています。(談)

